一宮市博物館だより

No.60　2017.10

もくじ

館長就任あいさつ …… 2
開館30周年記念特別展「没後60年　川合玉堂」…… 3
資料紹介　郷土資料『戸口及職業』『生産物調』…… 5
博物館アルバム（平成29年度前期）　…… 7
平成29年度後期　催し物のご案内…… 8

川合玉堂《時雨》昭和28(1953)年頃　パラミタミュージアム蔵
特別展「没後60年　川合玉堂」10月14日(土)～11月26日(日)

館長就任あいさつ

今年4月の人事異動で一宮市博物館及び三岸節子記念美術館、尾西歴史民俗資料館等の館長として赴任しました庄司と申します。長年、市役所内で勤務し、固定資産税、用地買収、企業誘致など主に不動産関連の事務に携わってきました。市職員の人生も終わりに近づいたところで、思わぬ部署への異動となり、不安はありましたが、日ごとに博物館の仕事が面白く感じ、また課題も少しずつ見えてきました。

私は自分の仕事や趣味から考えて、博物館とは全く無縁であると思っていましたが、思い返してみると、ここ数年、家族や友人と旅行に出かけたとき、観光目的ではありますが、国内外の数多くの博物館や美術館、名所旧跡などを訪れていたことに気づきました。特に最近は博物館明治村のリピーターになってしまい、謎解きにはまっています。館内の地図は大体頭の中に入っています。

今はどこの博物館や美術館でも敷居が高いという印象が薄れ、なにか面白そうなことをやっているから、とにかく行ってみようという施設になってきたように感じます。

最近の映画やテレビドラマも面白い歴史ものが放映されています。「軍師官兵衛」には感動しました。「ブラタモリ」は毎回欠かさず見ていますが、特に名古屋編は、地元に住みながら知らないことが多く放映され感銘しました。

少し堅い話になりますが、日本の人口は2007（平成19）年から2010（平成22）年までは、ほぼ横ばいで推移していたものが2011（平成23）年に26万人の減少となり、その後減少が続いています。つい最近の報道では全国的にも珍しく自然増が続いていた愛知県でも、現在の形式で統計がとられるようになった1947（昭和22）年以降初めて、2016（平成28）の1年間に、生まれた子どもの数より死亡した人の数が多くなったと発表しました。

実は一宮市でも2013（平成25）年から人口が減少に転じています。実際問題があるのは、一宮市は周辺都市に比べ高齢者の人口割合が多くなっているということです。皆さんが住んでいる周辺で、最近空き家が目立つとか、耕作放棄地が多いとか、子どもの数が減ってきたとか思いませんか。若い人や子どもが減り高齢者が多くなり、そして人口が減っていくのです。

一宮市が今後どのように変貌するのか簡単には想定できませんが、私たちが今できることは、子どもを育てやすい環境をつくり、高齢者ができる限り健康で長く暮らせるような街づくりをしなければならないことだと思います。

このような意味において考えられる博物館の使命は、膨大に所蔵する昔の道具や美術工芸品などを大切に保存し研究することは勿論、それらをきちんと整理して、最大限活用しながら、高齢の方から小さなお子様まで気軽に何度も訪れたくなる面白そうな場所の提供をしなければならないことだと考えています。

クイズです。これはいったい何でしょう？

ドイツ博物館にて
（2011.09）

息子と2人で行ったドイツ博物館には、実物大の飛行機や船、人工衛星など膨大な数の工業製品や部品が展示されていました。

（館長　庄司　哲也）

〈クイズの答え〉　皆さんよくご存じの飛行機用星型エンジンです。

開館30周年記念　特別展
「没後60年　川合玉堂」
～移ろう四季と人々の暮らし～
10月14日(土)～11月26日(日)

今年は、一宮市木曽川町出身の日本画家・川合玉堂(1873～1957)が亡くなって60年目の節目の年、また博物館にとっても開館30周年の記念の年です。木曽川町外割田の玉堂の生誕地には、平成13年、玉堂記念木曽川図書館が開館し、3階の玉堂記念展示室にて常時10点程の所蔵品を展示してその画業を紹介していますが、今年は10月14日(土)から博物館と図書館の二館で特別展「没後60年　川合玉堂」を開催いたします。

川合家は、代々岐阜崇福寺にある織田信長の墓所の守護を司る家の分家で、玉堂の父・勘七は茶や俳句をたしなむ趣味人でした。母・かなの父は尾張藩校の明倫堂の教授で、竹堂と号して文墨も愛する人でした。夫妻はなかなか子宝に恵まれず、外割田の八剣神社に願立てをして生まれたのが芳三郎、のちの玉堂でした。一家は、玉堂が8歳のときに親戚を頼って岐阜米屋町に転居し、筆墨紙を商う店をもちました。

幼い頃から絵を得意とした玉堂は、14歳のときに知り合いのつてで京都の画家・望月玉泉に入門、岐阜から京都に通って稽古に励みました。この頃は、身近な植物や虫などを熱心に写生しました。17歳のときに「玉堂」と号し(師の「玉泉」と外祖父の「竹堂」から)、本格的に画家として歩み始めますが、翌年、美濃・尾張地方を襲った濃尾地震により父を亡くし、岐阜の家を整理して母と京都に移り住みます。20歳のときに結婚と母の死を経て、大きな試練と変化の中で修行を重ねます。

さらなる研鑽のため28歳のときに東京に移り住み、橋本雅邦に入門、京都の円山四条派の画法に加え、狩野派の画法も学びました。その後、日本美術院展などで評価を得て、34歳の時には若くして第1回文部省美術展覧会(文展)の審査員に任命されました。

玉堂は日本各地を訪れて季節感にあふれる風景画を描きましたが、そこにはしばしば自然に抱かれる人や動物が描きこまれ、作品を見る私たちに温かみ感じさせます。俳句や歌もたしなみ、洗練された画賛も多く残しました。晩年は自然豊かな東京都青梅市の御岳に住み、作画三昧の日々を過ごしました。

展覧会では、様々な技法を学んでいた若き頃の作品から、四季の移ろいとそこに生きる人々を抒情豊かに描いた風景画まで、生涯にわたる多彩な作品をお楽しみいただきます。

《秋山帰樵》▶
昭和27(1952)年頃
パラミタミュージアム蔵

◀《鵜飼》
昭和13(1938)年
大松美術館蔵

児玉希望　《日本三景 松嶋》▶
昭和10(1935)年頃
個人蔵

◀《夏景山水》
明治44(1911)年
玉堂美術館蔵

一宮市立玉堂記念木曽川図書館

弟子の児玉希望の作品も展示します。
10月14日(土)～22日(日)・11月1日(水)～8日(水)
午前10時～午後6時
休館日：月曜日　入場無料

■ 講演会
『玉堂さんのふるさと』
10月22日(日)　午後1時30分～
山口昭雄氏（元・木曽川町長）
会場　木曽川図書館
当日正午より会場受付にて整理券配布

一宮市博物館

10月14日(土)～11月26日(日)
午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日、11月24日(金)
料　金：一般500円　高大生300円　小中生200円

■ 講演会
『素顔の玉堂』
11月19日(日)　午後1時30分～
青山訓子氏　（岐阜県美術館学芸員）
会場　妙興寺公民館
当日正午より博物館受付にて整理券配布

博物館・美術館観覧券セット　一般1,000円　高大生500円　小中生300円　特別展会期中、各受付にて販売
■ 一宮市三岸節子記念美術館　特別展『名品と出会う－企業コレクションによる日本近代洋画展－』
9月23日(土・祝)～11月12日(日)

企画展「くらしの道具展」

平成30年1月13日(土)～3月11日(日)

昔なつかしい生活道具の展示を通じて、今と昔のくらしの違いを見つける展覧会です。クイズや体験を織り交ぜ、歴史を学び始める子どもたちに歴史をわかりやすく紹介します。

本展覧会は、博物館学芸員だけでなく、小学校教員を交えた準備委員会が企画しています。平成3年度から始まり、今年度の開催で27年目を迎えます。一宮市内にある全四十二校の小学校から、小学3年生が一度は見学に訪れ、昔のくらしについて理解を深めていきます。会期後には児童・教員にアンケートを行い、次年度へ反映させるなど、常に学校と博物館がよりよい学習のために試行錯誤を重ねてきた場でもあります。

今年度は「昔のあそび」を副題として取り上げ、子どもたちに昔の生活に興味や親しみを持ってもらいたいと現在準備を進めています。

（瀧　はる香）

▲平成28年度 展示風景

資料紹介
郷土資料『戸口及職業』・『生産物調』

一、はじめに

現在の一宮市大和町に関する郷土資料があります。一冊は『戸口及職業』（写真1）、もう一冊は『生産物調』（写真2）です。『戸口及職業』の奥書には「大正11年3月調査　石黒志げ」の記名があります。後者には作成年月日を判断する材料はありませんが、表装や内容などから前者と同様の時期に書かれたものと考えられます。

▲写真1　『郷土資料　戸口及職業』

▲写真2　『郷土資料　生産物調』

さて、本資料の調査対象の大和町（当時は「大和村」。以下「大和村」とする。）は、明治39年（1906）5月10日に苅安賀村、三輪村、妙興寺村、高井村、日光村の一部、稲保村の一部が合併し「苅安賀村」となり、明治41年5月1日に大和村に改称し、11の大字（江戸時代の苅安賀、北高井、南高井、於保、氏永、妙興寺、戸塚、宮地花池、毛受、馬引、福森の各村）に区分されます。

江戸時代後期に書かれた「尾張徇行記」（『名古屋叢書続編』第六巻、名古屋市教育委員会、1967年）を読み進めていくと、大和村は豊穣な土地で農業に適した地域であることがわかります。また農閑期などには「木綿買」「繰綿商」「大工木挽職」「小商」などの商業をする者もおり、早くから経済活動が盛んな地域の一つでもありました。これは真清田神社の門前で開かれていた三八市などの影響とも考えられます。

また弘化5・嘉永元年（1848）に作成された「尾州・濃州紺屋惣帳」（『名古屋叢書』第11巻、名古屋市教育委員会、1962年）によると、大和村内に10軒の紺屋と呼ばれる染物屋があり、中島郡奥村の19軒、中島郡一宮村の12軒などと染織業が盛んな地域の一つでもありました。

さて、調査・作成者の石黒志げは、使用している「愛知県中島郡寧静尋常小学校」の罫紙から、寧静尋常小学校（現在の一宮市立大和西小学校）の教員で、かなり熱心な教育者であったようです。

石黒志げは、まず序言で次のような持論を展開します。

抑総テ一国ノ政事ニハ必ズ国是ナルモノアリテ、為政者ハ此レニ依リテ政事ヲ為ス如ク、一村ニハ必ズ村是アリテ、為政者ハ此ニ依リ村政ヲ立テ、行カネバナラヌ。此レガ余ノ持論ナノダ。

▲写真3　『生産物調』序言の一部分

つまり、国の政治が国是に基づいて行われていれば、将来への見通しは明るいが、その国是がなければ世の中が乱れ、文明が遅れるなど進歩も発展もしなくなる。これは村においても同様である、ということです。さらに続けて教育においても、

国ニ国是ガアレバ其ノ政事ノ重大部分ヲ占メテイル国家教育行政ニモ国是ガ無ケレバナラナイハズダ。此レヲ余ハ国家教育是ト命名シタイ。此ノ意味カラ村政ニモ村是ガアツタナラバ其ノ村政ノ二大行政デアル村教育ニモ村是ガ無クテハナラナイ。此レヲ余ハ同様ニ村教育是ト命名シタイ。

と、「国是」に対応して「教育是」を説いています。つまり、国の教育方針に基づいた教育がなされても、国家を形成する村はそれぞれ人情・風俗・言語など事情が異なるため、国の教育方針と並行してその村に即した教育方針も定めなければならない、ということです。

その前提として、まず村勢を調査し、分析する必要性から、この二冊が石黒志げによって、調査、作成されました。

二、『戸口及職業』について

総数15頁にわたり、大正10年度の大和村の戸口と職業別戸数を記載しています。調査当時の戸数は2、205戸（本籍戸数は1、347戸）、人口は7、167人（本籍人口8、923人）でした。平成27年度実施の国勢調査によれば、大和町連区の世帯数は16、516世帯、人口は41、691人です。95年間で、実に戸（世帯）で約14倍、人口で約6倍と増加していることがわかります。

次に職業別戸数（全戸1、205戸）をみていくと、専業と兼業戸数を合わせると、農業980戸、工業101戸、商業64戸、雑業60戸に分類されます。このことからも、江戸時代から大正時代まで、農業が盛んな地域であったことがわかります。

工業は、織業23戸、大工17戸、染織5戸などありました。先に紹介した弘化5年の「尾州・濃州紺屋惣帳」には、10軒の紺屋がありましたが、大正10年の調査段階では染織が5戸と半分に減少していることがわかります。これは染織から織業へと転換したとも考えられます。この他にも鍛冶、提燈、桶などの産業が盛んでした。商業として、理髪9戸、菓子7戸とあり、小切、雑貨、金魚など幅広い商売を手がけていたことがわかります。

また雑業戸数（括弧内は人数）をみていくと、官吏四戸（4人）、諸車4戸、教員2戸（43人）、医師2戸（2人）、産婆2戸（2人）、俳優1戸（6人）などを数え、漁業、按摩もいました。

これらの他に、業務細別人員も数え上げられており、専業及び兼業を含む農業従事者は6、730人、工業従者は173人、商業従事者は100人、雑業従事者（僧侶及び無職を含む）は174人でありました。

以上のように、村の約77パーセントが農業（兼業を含む）に従事する農村地帯でありましたが、近代工業化の影響、特に織物産業の発展をみることができます。

三、『生産物調』について

総数130頁に及び、全体を五章構成とし、「一、生産調査ニ必要ナル予備調査事項」「二、農業生産物調査事項」「三、水産物調査事項」「四、工業生産物調査」「五、工産物調査」と分類され、さらにこれらが細分されています。特に「二、農業生産物調査事項」は25の項目に細分類されています。

大正10年度の大和村の職業別戸数（全戸1、205戸）の内、約77％の980戸が農業で占めてられていました。このことから、石黒志げは「農業ノ盛衰ハカツテ村ノ盛衰ニナルコトヲ知レ」「農業ノ奨励策ハ最モ大切ナルモノデアル」という見解を述べています。戸数1、205戸の内、専業農家は825戸、兼業農家は155戸ありました。兼業農家が多いのは、尾西織物の中心に近いことや、商工業地一宮市に隣接し、農業を片手間に他の生業を兼業するようになったからです。

石黒志げは、現況の農事について「改良農具ノ使ニ適スルヤウ土地整理ヲナサレテイナイ」、第一次世界大戦勃発以来商工業が興隆し、農業従事者が都市部へ流入し、農業が衰微していることからも「農事ニ改良ガ施サレ農村文化ノ開発ヲハカラザリ永久ニ商工業ニ対比例シテ衰微スルノミデアル事ヲ覚悟セネバナラヌ」と批判しています。

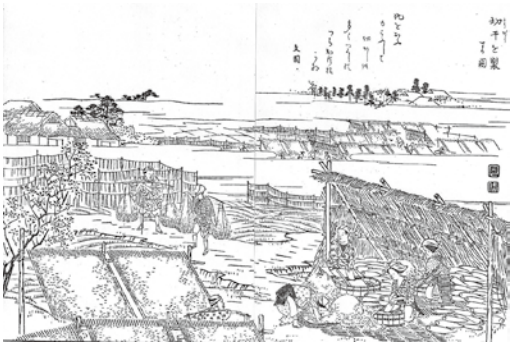


図1「切干を製する図」（「尾張名所図会」後編巻二）

また農産製造物として、干大根、大根切干、沢庵漬がありました。この地域周辺では、江戸時代から大根切干を製造し、諸国へ運送し、尾張国の「名産の絶品」と評されていました（『尾張名所図会』後編巻二）。沢庵漬は約112万kg、大根切干は約14万kgを生産し、特に沢庵漬は宮地花池で約45万kg（約38％）、大根切干は氏永で約48,000kg（約33％）を生産していました。ちなみに大根生産の作付は約168万㎡で約445万kg、次いで、サトイモ、スイカ、マスクウリなどと続きます。

次に織物について見ていきます。経営形態は「工場（10人以上）」、「家内工業（10人未満）」、「織元」、「賃織」に分けられます。賃織は機業戸数361戸の内、約94％の340戸という圧倒的な割合を占めていることがわかります。大正5年時点の機業戸数（『新編一宮市史』下巻、1977年）と比較すると、織元が3戸から8戸へ、家内工業が5戸から11戸へ、賃織が統計なしから340戸とそれぞれ増加していることがわかります。

また毛織物も2戸の工場で生産されるようになりました。この2戸は絹綿交織を主体とする工場でありましたが、毛織物へと生産を移行する初期の過程を示していると考えられます。

次に力織機の導入台数をみていくと、絹綿交織の力織機が14台導入されていました。他方、毛織物の力織機が70台も導入されています。これは、主力が毛織物へと移行していることを示しています。また織物の種類は「絹綿交織糸入縞物」「絹綿交織」「綿織物類（縞木綿）」「綿織物類（織色木綿類）」、「フランネル類」「セルヂ類」を生産していました。

おわりに

『戸口及職業』と『生産物調』の二冊を紹介しました。この地域は江戸時代を通して、農業地域でした。石黒志げは、織物などの産業へと移行することによって、本来あるべき大和村の姿「農業」の衰退を危惧していたといも言えます。主力が工業生産へと移行することで、農業が衰退しかねません。田畑が荒れれば、人の心も荒れることを考えたのでしょうか。

石黒志げは、教育現場の人間として、農業教育を取り入れることも考えたのでしょう。

（石黒智教）

企画展 新収蔵品展 コレクター秘蔵の逸品

▼6月3日（土）～7月9日（日）

近年、市民あるいは市外の所蔵者から当館に寄贈された美術工芸品を展示しました。

一宮市あるいは愛知県にゆかりの佐分眞や八木茂雄、藤島奨のデッサンや油彩画、山口華楊、上村松篁、上村淳之、吉田善彦らの繊細で美しい日本画、人間国宝・魚住為楽による砂張鉦、そして永楽善五郎（16代即全）による華麗な陶磁器など、かつて所蔵者が愛でた絵画や工芸品の数々をお楽しみいただきました。期間中に2回、担当学芸員による展示説明を行い、砂張鉦の余韻のある豊かな音色を生で楽しんでいただきました（6月10日・25日）。

夏季小展示 なんで穴があいてるの？ ～穴の向こうに広がる世界～

▼7月15日（土）～8月27日（日）

一宮市や愛知県内の遺跡から出土した穴のあいているものだけを集めて展示をしました。

勾玉や古銭、陶器製のおもり（陶錘）など12点展示し、展覧会のタイトルどおり「なんで穴があいてるの？」か楽しみながら、ご覧いただきました。このうち、唯一穴があいている理由がわからない円窓付土器については、「なんで穴があいているのか」を考えるコーナーを設け、多くの来館者の皆様に、コーナーに溢れんばかりの新たな説を書いていただきました。

会期中のイベント

■「穴があいてる勾玉をつくろう！」
8月5日（土）・8月19日（土）
各回午後1時30分～4時30分

■「なんで穴があいてるの？」
ワークショップ
8月20日（日）午後2時～3時

博物館で夏祭り！

▼7月15日（土）～17日（月・祝）

1日目に「壺釣り」を、2日目に「シルエットクイズ～学芸員Tからの挑戦状～」を、3日目に「じょうもんキーホルダーづくり」を行い、たくさんの親子連れでにぎわいました。

尾張平野を語る22 弥生時代の尾張平野

今年度は、発掘された弥生時代の道具の作り方や使い方をどう読み解くのか、当時の社会の様子をどのような方法で明らかにするのかをご講演いただきました。

■8月6日（日）「石器使用痕から探る弥生時代の農耕」原田幹氏（愛知県教育委員会文化財保護室）

■8月26日（土）「弥生土器にみる地域間交流～円窓付土器を中心に～」永井宏幸氏（愛知県埋蔵文化財センター）

■8月27日（日）「弥生土器から何がわかるか？ ―技術・機能、そして社会的背景」黒澤浩氏（南山大学）

▲濃尾平野を語る22
8月6日（日）原田幹氏

企画展 2017 一宮美術作家協会展

▼9月2日（土）～9月17日（日）

一宮美術作家協会会員72名による作品を展示しました。作家協会創立45年の記念展として、日本画、洋画、彫刻、立体、デザイン、工芸と各作家の個性あふれる多彩な作風を楽しむことができました。

企画展 一宮写真協会選抜写真展

▼9月21日（木）～10月1日（日）

一宮写真協会会員による選抜写真展。今回は、「時を撮る　写真は生きている」をテーマとし、出品者33名それぞれの熱い思いを込めた作品が展示されました。

たいけんの森

毎週土曜・日曜・祝日に、夏休み期間中は毎日開催しました。

■4月から6月は「民族衣装を着てみよう」ということで、モンゴルや韓国などの民族衣装を着てもらいました。ゴールデンウイークの4月29日から5月7日までは、特別に「戦国のよろい」を着てみよう」を行いました。皆、衣装やよろいを付けた姿を鏡で見て、うれしそうでした。

■7月から9月は、「じょうもんキーホルダー」と題し、カラフルな粘土に縄などで模様をつけてキーホルダーを作成しました。

博物館キッズクラブ

企画展の見学や、バスツアーを行いました。

■6月18日(日)オリエンテーションを行った後、企画展「新収蔵品展―コレクター秘蔵の逸品」を、クロスワードパズルを解きながら見学しました。

■7月23日(日)岐阜県博物館にて化石のコレクションや恐竜の骨格、特別展「生きている大地―地質図が語るぎふの大地」などを見学しました。

7月23日(日)岐阜県博物館にて

■8月20日(日)担当学芸員といっしょに夏季小展示を見学し、出土品に「なんで穴があいてるの?」か考えてみました。

後期は、特別展「没後60年川合玉堂」や、現代美術の展示(あいちトリエンナーレ地域展開)の見学などを予定しています。

所蔵作品の貸し出し

■愛知県陶磁美術館の企画展『瓦万華鏡』(4月15日~6月25日)に変形蓮華文軒丸瓦(中島廃寺)など6点を出品。

■尾西歴史民俗資料館の特別展『動物たちからみる武士の時代の一宮』(7月22日~9月3日)に墨八百八の「記録」や大毛沖遺跡出土遺物、養蚕関係資料など30点を出品。

実習生等の受け入れ

■中学生の職場体験
8月までに、一宮市内の中学校5校から10名。

■教職員の社会体験研修
近隣の小中学校から6名。

■博物館実習
皇學館大学・東京農業大学・愛知大学・愛知学院大学・滋賀県立大学・岐阜女子大学・愛知淑徳大学から全10名。

それぞれ「たいけんの森」の手伝い、貸しギャラリーの準備、発掘品の洗浄、遺跡の清掃など、博物館の様々な業務を経験してもらいました。

平成29年度後期の催し物

●展覧会

特別展「没後60年　川合玉堂」
10月14日(土)~11月26日(日)

企画展
2017一宮現代作家美術秀選展
12月2日(土)~12月17日(日)

企画展
1月13日(土)~3月11日(日)
くらしの道具

●催し物

市民文化財めぐり
11月1日(水)
※詳細は市広報10月号を参照。

民俗芸能公演
2月11日(日)・18日(日)・25日(日)

たいけんの森
10月~12月　ちいさなかけじく
1~3月　ミニたこづくり

一宮市博物館だより
第60号

発行日／平成29年10月1日
編集・発行／一宮市博物館
印刷／三井堂株式会社

利用案内

[開館時間] 午前9時30分~午後5時(入館は4時30分まで)
[休館日] 毎週月曜日(ただし、休日にあたる場合は翌日に休館)、休日の翌日(ただし、土曜日・日曜日または休日の場合は開館)、年末年始(12/28~31、1/1~4)

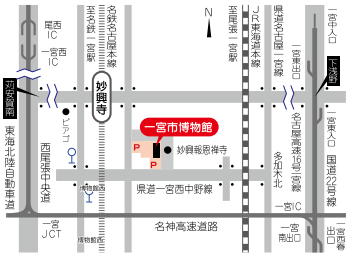
[観覧料]

		一般	高校・大学生	小・中学生
常設観覧料	個人	200円	100円	50円
	20人以上の団体	160円	80円	40円
博物館パスポート(年間観覧券)		800円	400円	200円
ミュゼカード(年間共通観覧券)		2,000円	1,000円	500円
常設展示共通観覧券		400円	200円	100円

※市内小・中学生は無料。市外小・中学生は土曜日無料。
※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。
※身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。
※博物館パスポート=一宮市博物館の常設展示および特別展示を発行から1年間何度でも観覧可。
※ミュゼカード=一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示および特別展示を発行から1年間何度でも観覧可。
※常設展示共通観覧券=一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧可。有効期限可なし。

[特別観覧料] 特別展示の観覧料はその都度定めます。
[無料ゾーン] たいけんの森・展示ホール・2階ギャラリー

[交通アクセス]
名鉄名古屋本線「妙興寺」駅下車南口より徒歩7分
ニコニコふれあいバス「博物館西」下車徒歩5分



〒491-0922　愛知県一宮市大和町妙興寺2390番地
TEL0586-46-3215　FAX0586-46-3216
URL http://www.icm-jp.com/

Twitter 公式アカウント　@11hcitymuseum
Facebook 公式ページ　https://www.facebook.com/ichinomiya.city.museum/
Instagram 公式アカウント　@ichinomiya_city_museum